

Daichikyo News

# 大地協ニュース

大地協ニュース復刊 第27号

発行元：NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会

企画委員会《広報宣伝部》

発行日：2025年6月 第27号

担当窓口：望之門保育園 佐伯 剛

TEL 6651-7741

Fax 6652-8841

大地協の最新☆情報は右記 →

QRコードをご覧ください。



大地協ニュースへのご感想・記事テーマリクエストなど  
上記担当窓口まで皆様のお声を頂けましたら幸いです。

## 福祉型障がい児入所施設 中津学園再建に向けて

大阪市の北区、すぐ裏手には淀川が流れ、梅田にもほど近い便利な場所に中津学園があります。法人である光徳寺善隣館は大正時代（1921年）に始まりました。セツルメントとして、保育園・母子寮・授産事業などの運営を行ってきましたが、大阪大空襲（1945年）によって、光徳寺も善隣館も幼稚園も全て焼けてしまいました。この後の先人の努力により、お寺を再建し保育園を再開、昭和36年（1961年）には、新たに知的障害をもつ子供の施設を作ることになりました。

昭和36年に中津学園が建築された当初は、円形でガラス張りの螺旋階段があるモダンな建物でありましたが、60年を超える建物は傷みも激しく、近年の大震災には耐えることができないと判断し、令和5年度より園舎の建替えに踏み切りました。工事中の仮園舎は大正区にある一軒家でした。学校の問題、スクールバスの問題等々課題は山積みの中、子供たちは1年半、大正区で過ごすことになりました。まったくの新参者に対し、ご近所の皆様には温かく迎えて頂き、感謝の思いでいっぱいです。



施設の行事ソフトボール大会参加



昨年の夏のキャンプのグループ写真

子供たちに安心・安全な環境を提供したいとの願いが叶い、この4月によりやく新しい中津学園が完成しました。工事中の写真を見ながら、『僕のお部屋？』と心配そうにしていた子もニコニコと新しい園舎に引っ越しをしました。

建築資材の高騰や大阪万博の建設ラッシュと重なり、園舎を建てるに当たっては、苦しいことも沢山在りましたが、一方で多くの方々からの励ましやご協力を頂き、今日を迎えることが出来ました。資金調達の一部として、新たにクラウドファンディングにも挑戦しました。また今回の園舎の建て替えと同時に、アーカイブとして、かつて（大正時代）の善隣館の姿を、写真をもとに立体的に再現するという取り組みを行うことが出来ました。地域とともにある施設として、先人の思いをつないで行くとともに、これからの新しいセツルメントとして何ができるのかを地域の皆様とともに考えて行きたいと思っています。



↑昭和36年に建設旧園舎

↓新しい建物



社会福祉法人 光徳寺善隣館  
中津学園 園長 渡辺 祐子

# 50年のぬくもり。「おかえり」が聞こえる場所。 ＝ 今池こどもの家 ＝

今池こどもの家は、西成区あいりん地域で50年の歴史を持つ児童館です。児童館は児童福祉法第40条に定められた児童厚生施設のひとつであり、地域の児童（0～18歳）が自由に集える居場所です。登録不要・利用料無料で、誰もが気軽に来館できます。



施設外観



手作りのうんていブランコ



施設館内



卓球クラブの様子

昭和51年、チンチン電車「今池駅」から徒歩2分の場所に設立されましたが、建物の耐震基準の問題から、2016年4月に少子化の影響で廃校となった小学校へ事業拠点を移し、新たなスタートを切りました。午前中は乳幼児とその家族が主な利用者で、お弁当を持参し、親子でゆったり過ごす場として活用されています。夕方になると、多くの小学生が遊びに訪れます。広いグラウンドを活用し、子どもたちは放課後を生き生きと過ごします。保護者が買い物や就労などで自宅にいない家庭の子どもたちは、ランドセルを背負ったまま「ただいま!」とやって来ます。宿題をしたり、本を読んだり、おやつを食べながら談笑したりと、静かに過ごすこともできるプレイルームは居心地の良い空間です。

最近では、ボール遊びや鬼ごっこ、近所に住むものづくりボランティアのおっちゃんを作ってくれた「うんていブランコ」が子どもたちに大人気です。また、異年齢の子ども同士が自然に交流できる環境があり、中高生が小学生や乳幼児の世話をする姿も日常的に見られます。

今池こどもの家に長く受け継がれるクラブ活動のひとつとして、卓球があります。時代とともに練習方法や取り組みを柔軟に変えながら、技術向上だけでなく、自主性や協調性など、子どもの成長に欠かせない要素を多く取り入れています。釜ヶ崎の中心にある西成市民館で開催される市民館卓球大会では、熟練のおっちゃんプレイヤーたちと真剣勝負をすることもあります。かつて全国大会で優勝し、オリンピック選手も輩出した名門「今池クラブ」は、今も週2回の練習を続けています。

また、毎月数回、館外活動を実施し、公園あそびや遠足などを企画しています。夏は「びわこキャンプ」、秋は「川あそび遠足」、冬は「雪あそび遠足」など、季節ごとの自然体験行事も魅力のひとつです。さらに、地域のイベントにも積極的に参加し、近隣の夏祭りや盆踊り、西成区民体育レクリエーション大会、防災訓練などを通じて、地域の方々との交流を大切にしています。こうした活動を通じて、地元の方々と顔見知りになり、地域全体で子育てを支える仕組みづくりにもつながっています。

今池こどもの家は、これからも地域に根ざした児童館として、子どもたちが安心して楽しく過ごせる居場所を提供し続けます。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

びわこキャンプで早朝バス釣り



社会福祉法人 石井記念愛染園  
今池こどもの家 多賀井 潤一郎

# 『子どもの居場所をこれからも』

大地協に加盟したのは平成28年。その頃の法人名は、『波除福祉会』だったが、令和3年4月に合併し現在の『淳風会』となった。保育事業が8か所、高齢者事業が27か所、学童保育が4か所（大阪市/吹田市）39施設の事業所を運営している。地域も大阪市/吹田市/豊中市/寝屋川市と広範囲である。今回紹介するのは、大阪市港区にある学童保育『アフタースクールKIDS なみよけ』。JR環状線弁天町駅から徒歩10分。近所には波除公園があり、近隣の子どもから大人まで、様々な世代の方が利用している。放課後には子どもの姿が多く見られ、KIDSの子どもたちもよく利用し、元気に体を動かして遊んでいる。定期的に行く事で顔見知りの児童も増え、ケガをした時には手当てで絆創膏を貼ってあげたり、自転車のチェーンが外れたら修理をしたり、困った時に助け合っている姿も増えてきた。また、施設の前で花の世話をしていると近所の方が「なんの植物育ててるん？」と声をかけてくださったり、家庭で育てている花を知らないうちに飾ってくれたりもする。前で水遊びやシャボン玉をしていると笑顔で子どもと話をしたり、冬にもちつきをしているとかけ声を一緒にしてくれた。KIDSの周りは昔から住んでいる人が多いようで、今のご時世に珍しく近所付き合いというものが積極的にされている地域という印象だ。

『KIDS なみよけ』が開設されたのは平成27年4月。出来てもう10年たった。当時小1の壁の問題がニュースでよく流れていた。また法人内の卒園生で困っている保護者がいて、そのために学童保育を開設したと聞いている。法人本部の近くに場所を借り、遠くの小学校には車でお迎えにも行った。その時は出来たばかりなので1年生と少数の2、3年生。何もかもがゼロからの活動。子どもと一緒に活動内容を決めて自分たちの居場所を作っていった。1年後、西区に『アフタースクールKIDS かわぐち』を設立する。それから、色々な支援員が両施設に携わったが、どの支援員も子どもの居場所を大事にするという思いは変わらず活動していたと思う。時にはKIDS なみよけとKIDS かわぐち合同で行事を行う。ここ最近では夏休みのプール遠足や夏のキャンプだ。平日は難しいが夏休みなどの長期休みを利用して交流する。自分は1年に1度ぐらいしかKIDS かわぐちの児童とは会わないが「久しぶり！」と話しかけてくれる子がいるのは少しうれしい。子ども同士も、はじめは人見知りで会話がなくても一晩同じ部屋で過ごすことで仲良くなる子もいる。時にはKIDS かわぐちの高学年がKIDS なみよけの低学年を助けている場面もあった。今年の夏休みも合同でキャンプに行く。どんな姿が見られるのか



楽しみである。今回この原稿を書くにあたって昔ここで働いていた支援員に話を聞いたり、過去の資料やミーティングの議事録を探して読んでみた。今まで関わった支援員がそれぞれの個性を出しながら色々なやり方でKIDSを盛り上げていった。支援員によってそれぞれやり方は違ってもいいが、KIDSを作ろうとした時の気持ちが変わらないように法人の助けを借りながら、これからも一緒に活動していきたいと思う。

# 新たな一歩

淀川区にありますミード保育園は1916年（大正5年）に神愛幼稚園として設立致しました。1953年（昭和28年）に大阪市より認可を受け1977年（昭和52年）にミード保育園と改称し、設立から109年の歳月を地域と共に歩んで参りました。

「愛されていることを知り、愛する者となるために」を保育理念に、神様やご家族、保育園の先生や友だち、また身近な地域の方々など多くの方の愛を受けながら成長していく子どもたちの姿を喜びとして、日々歩みを続けております。

そしてこの度園舎を建て直し、今年度より新園舎での保育が本格的にスタートいたしました。4月12日には新園舎竣工式を挙行し、地域の皆様にも新園舎をご覧いただきました

が、式典には親子三代にわたって当園をご利用頂いているご家族も出席下さり、ミード保育園の歴史と、長きにわたり地域の皆様から深い信頼と愛情を寄せて頂いていることを実感した次第です。

さて、その新園舎で今年度39名の新入園児を迎え、在園時と合わせて153名で保育をスタートいたしました。初めはピカピカの園舎の一つ一つに「うわあお部屋広っ」「きれいやなあ」「ヤッホー」と吹き抜けの2階から下の友だちを呼ぶなど大興奮の子どもたち。私たち保育士は嬉しい気持ちと同時に旧園舎と使い勝手の違うシステムに戸惑う場面もありましたが、ようやくそれらにも少しずつ慣れ、快適な園生活を送っております。

新しい園舎になり、乳児の子どもたちのお気に入りの場所はウッドデッキです。お昼寝から早く目覚めた子どもは、ウッドデッキで優しい風に吹かれ心地よい表情を見せてくれ、木々に止まりに来る小鳥の声を聞き木漏れ日に手を伸ばす姿は何とも穏やかです。また幼児の子どもたちに人気なのは絵本コーナー。保育の中で自分で、また友だちと頭を寄せ合って見るのは勿論、夕方お迎えに来られたお父さん、お母さんと好きな絵本を選び、読んでもらってから帰るというのを楽しみにしている子どももいます。保護者の方もお仕事を終えられ、ちょっと一息つきお子様と心を通わせるほっとする空間となっているようです、

こうした新園舎での活動ですが、前年度建て替えのために休止していました地域の親子を対象にした子育てサークルと園庭開放も再開し、先日行った際には以前利用頂いていた方の妹さんが参加下さり、ミードのサークルで出会った縁が今も続いていて時々みんな遊びに行ったりしているとお話ししてくださいました。ミード保育園が地域の皆様にとっても交流を広げる場、又子育て情報を共有し、子育てを楽しめる開かれた場となれど願っています。

また秋にはコロナ禍より休んでいましたミードフェスタの再開を予定しており、ちょっとした出し物や、軽食、

ゲームなど子どもたちからお年寄りまで楽しめる催しを現在企画検討中です。このようにして今、新しい一歩を踏み出したミード保育園。保育園を取り巻く環境が多様化する中で保育現場にも様々なことが求められていますが、私たちは今までミード保育園が地域の皆様と共に築いてきた歴史を大切に、これからも目の前の子どもたちをみつめながら、共に新しい時代に即した保育を実践すべく努めてまいりたいと思っております。

社会福祉法人キリスト教ミード社会館  
ミード保育園 主任 永井 千穂



コーナー絵本